

## 序

不惑

私は何時しかに四十歳になった。如来の大悲本願に催されて、細々と白道の歩みを続けること、十有六年、古来、四十歳を以て「不惑」と云う。孔子は四十にして惑わずと云ったが、惑わざるところか、いよいよ名利愛欲の廣海に、大山に、迷惑沈没、造罪無碍、散乱放逸、無慚無愧、永劫久遠の我を、惑の一字に凝現するものではあるが、然し、これを対世間的に云えば、今更人生に生れ出で、仏教人として立つに何の不安もなく、後悔もなく、大臣大将を求めず、金満家、事業家等々になりたくもなく、いよいよ佛教者の一員として終始することの喜びと、過去四十年の歩みに対して、絶對尊重の合掌感謝を、拒むことは出来ない。不惑の年とはよくも言ったものだと感ずる。私は今、不惑の年の新年にあたり、如来の王本願を、願生の大信海において、更に更に味嘗し、改めてより深く、より純粹に、その真意を頂戴して、いよいよ如来の本願を大地に生きんとし、猶、同胞にこの喜びを別けたいと切念して、本願文及び本願成就文に就いて、号を追ってペンを執ることにしたのである。